

# 第1回 いじめ未然防止・対策委員会 議事録

日時：令和元年6月28日（金）

15：50～17：50

場所：校長室

出席者 土屋 舞（臨床心理士）、工藤 洋子（地域代表）、小野 耕一（育友会長）、  
増田 文代（校長）【委員長】、安田 貴彦（生徒指導主事）、  
牛丸美津子（1年副主任）、小島 貴宏（2年副主任）、戸澤 英美（3年副主任）  
欠席者 安藤 和昭（教頭）、柳原 元子（教育相談係）、青山 亜由（養護教諭）

## 1 開会の挨拶（学校長：委員長）

毎日のようにいじめ事案が報道されているが、いじめがない学校を目指していきたい。そのために早期に発見できる組織をつくるためにも、ご指導いただきたい。

## 2 委嘱

いじめ未然防止・対策委員の委嘱を行った。

## 3 自己紹介

## 4 会議の概要（協議事項）

### （1）組織の説明

岐阜県立瑞浪高等学校いじめ未然防止・対策委員会設置要綱について、学校より説明し、質疑応答の後、承認された。（資料1）

### （2）取組概要

今年度のいじめ防止基本方針を説明し、質疑応答の後、承認された（資料2）。  
その中で、特に本校のいじめ防止プログラムの内容説明を詳細に行った。いじめ発生時の事案対応マニュアルに関しても説明し、その際の協力を要請した。さらに「5 情報等の取扱い」で「いじめについての調査アンケートの質問票の原本等の一次資料、アンケートや聴取の結果を記録した文書等の二次資料及び調査報告書は、指導要録との並びで保存期間を卒業後5年とする」ことに訂正し、了承された。

### （3）昨年度報告

・いじめ認知件数33件（内27件解消、6件解消に向けて取り組み中）

内訳：1年男子	4（-6）件	1年女子	6（-4）件
2年男子	1（-2）件	2年女子	9（+6）件
3年男子	9（+7）件	3年女子	4（-2）件

・いじめの態様

①冷やかしからかい、悪口や脅し文句	14 (-15) 件
②仲間外れや集団による無視	6 (-4) 件
③軽くぶつかる、遊ぶ感じで叩いたり蹴るなど	3 (-6) 件
④ひどくぶつかる、叩いたり蹴るなど	7 (+3) 件
⑤金品をたかられるなど	0 (-1) 件
⑥金品を隠す、盗む、物を壊す、捨てるなど	3 (+1) 件
⑦嫌なこと、恥ずかしいこと、危険なことなどを無理にさせられるなど	4 (+3) 件
⑧パソコンや携帯電話で悪口を書かれる、恥ずかしい写真を載せられるなど	7 (+1) 件
⑨その他	4 (+4) 件

(4) 本校の現状報告 (学年ごと)

- ・部活動内での先輩や同級生の言動が嫌だと感じる生徒がいる。話し方、伝え方に注意する。
- ・冷やかし、からかいを受けた生徒に対して一人ひとり聞いていったが、幸い一人で抱えていることはなかった。
- ・支援計画のない生徒で、発達障害が疑われる生徒の中には、教員、友人のこを受け入れられない人もいる。

・女子同士のトラブルでは、関係修復するところまではいっていないが、お互いに新たな人間関係を築いて前向きに生活している。

・長期欠席者の一人は、周りのサポートで学校へ来られたり、考査を休んだりと不安定な部分がある。担任との関係が良好であり、今は来られている。

・年々、相手からされること、言われることに対する耐性が弱くなってきている。

・嫌なことをされたら、相手がどう思うかが分からない生徒もいる。

・人に言えず、SNS にあげて、それがまわりまわって本人に伝わる。ノートに書いて、破り捨てるなどして、解消できないだろうか。

・客観的に見ると、自分は好き勝手にするけれど、相手のことに関しては、それ以上に反応して、いろいろなところでトラブルになってしまう。

(5) 質疑応答／指導・助言

・会社でもいじめがある。パワハラといわれる。いじめられている本人に聞くと、話してくれるが、いじめている方には話さないでほしいという。なかなか解決にならない。その場合、全体に対して、発言し、改善に取り組んでいる。

「バカだなー、お前」の一言が、受け止める側の捉え方で問題となる。昔は受け止める側にも幅があり、許されていたところもあるが今はそうではない。

問題があれば、すぐに上司に報告するが、直属であると部署が分かってしまうため、社長に直接訴える事案もある。とにかくその人を守るという姿勢を出している。

・不登校といじめとの関係はどのようになっているか。(昨年度でいうと、就職進学が決まってからの怠けで欠席が増え、30日を超えることが複数名でみられた。ただし不登校傾向からい

じめの兆候がみられるので注視していきたい)

・自分の思いをうまく伝えられないコミュニケーション力の低下が顕著にみられるようになった。強く言うと泣いてしまう。なにくそという思いをもって頑張れない。メンタルが弱い。

・自分の思いを正しく伝えられるか、相手の気持ちを正しく受け止められるかが心配。周りの気持ちを汲み取れない。急にはできないので、何も考えずに言ってしまう子なのか、わかっていて意識している子なのか見極めて話を聴くことが大切となる。この先生なら話せるという人がいてほしい。

・いろいろな子がいて、人がいる。自分の居場所を探せるように、集団生活から学んでほしい。大人がどの子ども大事にしていくことをみせていく姿勢が大切となる。社会に出る前に力をつけさせてもらいたい。高校生活で人との関わりの基礎を築いてほしい。

・生徒たちは傷つくことを恐れていて、精神的に壊れやすい状態である。

どうしたらよいでしょうか。

\*いろんなところで話をしていくことが大切である。

\*生徒の思いを分かってあげるために信頼関係を築いていくことが大切である。あきらめずに取り組んでほしい。

\*アンケートを工夫しながら、実施していく。アンケートに答えることで、生徒にもこのようなことはいけないことであると考えてもらう。

## 5 その他

第2回いじめ未然防止・対策委員会については、年度末の2月21日金曜日を予定している。

## 6 委員長挨拶

今後とも至らぬ点や行き届かない点については、ご指導ご助言をいただくとともに、外部の力を活用しながら、いじめを未然に防止するよう努めていく。

### <添付資料>

資料1 岐阜県立瑞浪高等学校 いじめ未然防止・対策委員会設置要綱

資料2 岐阜県立瑞浪高等学校いじめ防止基本方針